

昆虫に花粉を運んでもらう花

受粉のために昆虫に花粉を運んでもらう植物は、受粉を成功させるために、さまざまな工夫をしています。

シモバシラの花は、秋になると複数の小さな花を茎に垂直に並べて咲きます（垂直花序）。花は茎の一方向にまとまってつきます。

シモバシラを訪れた昆虫は、下の方の花から上の方の花へ順番に移動しながら蜜を吸います。上まで行くと、体に花粉をつけたまま他の株の花へ飛んでいくので受粉を助ける仕組みです。ひとつの花に4本ある雄しべは、雌しべとともに花弁よりも外に突き出し、昆虫の体に花粉をつけやすくなっています。



長く突き出した雄しべ



花を訪れた昆虫は、蜜を吸いながら下の花から上の方へ移動する

蜜を吸うキンケハラナガツチバチ

シモバシラ観察スポット

出現は、公園公式ホームページや公式ツイッターなどでお知らせしています。ぜひご覧ください。



氷の花 シモバシラ



シモバシラは、秋の園内で白い花をいくつも咲かせていた植物です。冬の寒さもいよいよ本番になるころ、シモバシラはもう一度白い衣装をまといます。

年末から1月の寒さの厳しい時期だけに見られる氷の芸術をさがして公園を歩いてみませんか。

公園からのおねがい

- ・園内の生きものは採取したり、持ち帰らないようにしましょう。
- ・花畑や花壇、柵で囲った場所は入らずに観察しましょう。

氷の花はいつ咲く？

シモバシラ 一冬の姿



シモバシラ (植物の析出氷)

さまざまな形のもの
がみられる

出現期：12月下旬～
1月中旬

高さ：最大で約1.3m

特徴：一度形成すると
夜間の気温が氷
点下になれば数
度再形成される

シモバシラ (植物)

白い花は、わずかに
くちびる形になる

分類：シソ科

花期：9月～10月

高さ：40～90cm

特徴：霜柱がつくこと
から名がついた
山地の木陰に生
える

シモバシラ 一秋の姿



氷の花ができる仕組み

シモバシラの氷の花ができる仕組みは、まだ完全には解明されて
いません。

気温が氷点下になると、地上の水分は凍結しますが、地中の水分
はまだ液体の状態です。シモバシラは冬を越して2年以上生き
ることができる多年生の植物なので、地上の葉や茎は枯れても、地
下の根は生き続けています。根が水分を吸収すると、水は枯れた
茎の中にある水の通り道(導管)を通り、茎の途中から外側へ浸
み出して凍結することがわかっています。

シモバシラ (析出氷)

火山灰が積もる関東
平野でよくみられる

出現期：12月下旬～
2月下旬ころ

特徴：地中の水分が地
表の氷に引き寄
せられ凍結する
凍結を繰り返し
て柱状になる

